

一〇 引合勘定帳 (横帳)

(表紙)  
「文政五年

午閏正月十二日改

⊕ 金 銀 指

取極メ相済ミ申候以上  
出被下、引合勘定  
五ヶ年分相調御書  
戌ノ年6月正月迄  
宇野与蔵Ⓜ

榎 藤左衛門様

覚

子三月十五日

一、百五拾文

同十二月廿一日  
一、金三歩ト

銀三匁

丑ノ三月五日  
一、金壹歩ト

四百五拾文

根上へ立替

さらさ木綿式反半

上七戸拾枚

同四月

一、銀式拾三匁八分

金泊四拾枚

一、七拾文

木ノみ代不足

九月廿五日

一、四百五拾文

上白干芋式百匁代

一、銀六匁五分

矢立壹丁

六月八日

一、銀式拾式匁

白木綿四反

メ 金壹兩

銀五拾五匁三分

銀壹メ百廿文

此処へ

丑十一月廿四日

入式メ四百文

流物代不足

戌年6卯年迄六ヶ年、荷物水上小差引御書出

入金三兩壹歩

錢拾壹メ三拾文

亥年

一、金壹兩壹歩

峯吉殿から塩や半四郎殿へ

銀四匁

立替相渡ヌ

差引而  
錢拾貳メ五拾文 入

永六匁七分八厘  
此処へ

寅正月十九日  
一入 貳百三拾文 着代

寅十二月  
一、金四兩仁朱 伊作殿へ古手代

一入 金仁朱 最上院損

卯二月十四日  
一、金拾兩 当座金へ返済

六拾文 無尽出金

除ク

寅五月廿四日  
一入 金四兩 忠藏かり

差引而  
金三兩ト 入  
永四拾四匁式分八厘

此り

永四拾四匁式分八厘

同七月十一日  
一入 金貳兩ト 錢廿メ文代

永八拾九匁九分

卯四月八日  
一、銀六拾四匁九分 浜ちりめん羽おり地代

此り

同五月十日  
一、同九匁 喜撰茶、山吹茶

同  
一入 金貳歩 仕替金入

小十路はん

同十二月  
一入 金拾兩 当座かり

此り 除ク

同九月十一日  
一、金拾六兩貳歩 仙台紅花売勘定違

メ 金拾七兩貳歩

銀式匁 〔匁立会改

同五月卅日

一、銀三拾三匁 白木綿六反

同六月十五日

一、錢貳百文 山形ニ而金米糖

同六月廿日

一、銀六拾匁 つほ石運賃

同 一、銀拾壹匁四分 藥荷物運賃

同 一、銀六匁八分五厘 小刀□□運賃

七月二日 一、銀貳拾八匁五分 唐紙

金拾六兩貳歩

銀貳百廿壹匁分四厘

此金三兩貳歩仁朱

銀三匁六分四厘

合金貳拾兩二朱

永六匁六厘

此処へ

八月三日

入金貳拾兩 与蔵請取、仙台へ向

差引而

金仁朱ト

不足

永六匁六厘

卯ノ秋

一、金壹兩

權内殿分木ノ実代

壹メ七拾入

此永拾六匁貳分壹厘

卯ノ九月

一、金三拾八兩三步

造塩百四拾表代

永四匁壹分六厘

金三拾九兩三步

永貳十匁三分七厘

此処へ

極月廿九日

入金貳拾兩

与蔵請取

塩代へ向

極月廿二日

入金貳兩者 権内ばかり之内

塩代へ向

入金拾八両 流物代、弥次兵衛分

五百八拾文

卯四月 入四百拾貳文 京都差引不足

同十二月

入金壹歩 酒田大沼平八方

八拾七文

入金四拾兩壹歩

錢壹メ七拾九文

此永拾六匁三分五厘

差引而

金壹歩 入

永廿匁九分八厘

権内殿方

卯十月十七日

一、金三拾兩 夫又次郎

此り 銀百八匁

同十一月五日 夫宗吉

一、金貳拾兩

此り 五拾四匁

元利

入金五拾兩

銀百六拾貳匁

此処へ

辰二月八日

入金貳拾兩

長泉寺様ら請取

同二月十三日

入金拾兩

旦那直受取

同二月十七日

入金貳拾兩

夫只次郎ら受取

入金五拾兩

差引

残而銀百六拾貳匁

不足

此金貳兩貳歩二朱

永七匁五分

卯ノ年分辰ノ春勘定  
一、入金五拾四兩  
上方勘定

三步仁朱

銀壹匁三分三厘

正月廿一日  
一、入金拾五兩貳步  
流物代

除ク

メ金七拾兩壹步仁朱

銀壹匁三分三厘

此〇百四拾六文

此処へ

六月廿一日  
一、金拾兩  
流物代ニ相渡

除ク

同十七日  
一、金拾貳兩  
同儀藏殿へ相渡

同廿六日  
一、金壹步  
下金百兩相渡ス

三百文  
太寶取替

八月九日

一、金仁朱ト  
からかさ代

五百文

八月十三日  
一、金貳拾兩  
紅花勘定の内

八月十六日  
一、八百文  
むしろ代

メ金四拾貳兩壹步仁朱

壹メ六百文

差引而

金貳拾七兩三步  
入

百九拾六文

辰八月十六日  
一、入金拾三兩貳步仁朱  
九藏殿分流物代

七百九拾五文

同日  
一、入金拾三兩方壹步仁朱  
弥二兵衛分流物代

六百八拾五文

同日  
一、入金七兩壹步仁朱  
夜着ふとん代

金三拾四兩老歩仁朱

老メ四百八拾文

此処へ

一、金拾兩

忠藏ヲ以相渡

五月廿八日

一、金五拾五兩老歩

青亭八駄目録表

一、銀三匁五分

ほたる火

九月廿五日

一、金貳歩

藤七殿ヲ義藏殿へ相渡ル

六百文

一、銀拾老匁五分九厘

葉荷運賃、根上へ相渡

差引而

金四拾五兩三步

銀拾五匁九厘

錢六百元

又差引而

金拾老兩老歩二朱

錢七百八拾文

かし

權内殿分

已正月十二日

一、金五拾兩

内

藤四郎殿へ相渡ス

銀拾五匁九厘

此処へ

入金貳拾兩

為替金相渡ル

兵右衛門殿へ

金四拾五兩三步

銀拾五匁九厘

錢六百元

又差引而

金拾老兩老歩二朱

錢七百八拾文

かし

權内殿分

已正月十二日

一、金五拾兩

内

藤四郎殿へ相渡ス

銀拾五匁九厘

此処へ

入金貳拾兩

為替金相渡ル

兵右衛門殿へ

正月廿六日

金三拾兩

殘金貳拾兩

藤四郎ヲ以請取

不足

かし

辰年分三月勘定

一、入金拾兩三步

銀四匁六分三厘

京都紅花売勘定不足入

銀四拾三匁  
錢五百文

一、入金五兩壹步

夏流代不足

かし

金拾六兩

銀四匁六分三厘

此永七匁七分

庄内紅花

一、入金廿八兩壹步仁朱

庄内紅花仕入金

巳四月三日

一、貳百文

旦那天神行相渡ス

八月四日

一、金廿兩

相渡

五月七日  
一、金壹兩

あさ羽おり

差引而

銀五匁

残金八兩壹步仁朱

入

同日

一、銀貳五五分

同ひぼ

九月朔日

一、金五兩

除ク

流代相渡

三百文

金下賃

八月廿五日

一、金三步仁朱

唐紙代

六月廿二日

一、銀三拾五匁五分

白木綿五反

九月十八日

一、金壹兩と

青苧五メ五百三拾匁代

金壹兩仁朱

五百四拾文

十月廿日  
一、銀八匁

葉荷物運賃

此永六拾三匁三分

銀六百六拾九文

かし

同  
一、同三拾匁

青石運賃

入方

一、錢貳百五拾文

同酒田丁持

金五拾六匁

金六兩三步二朱

永拾匁四分六厘

銀三拾八匁

錢拾貳メ貳百四拾六文

錢七百九拾文

渡方

一、入金老歩

酒田出立之砌かり

金三拾七匁と

午正月書出表

永八拾六匁貳厘

一、入金五兩貳歩

辰年ノ午正月迄

錢老メ九百四拾九文

百廿文

水上諸懸物ノ高

差引而

金五兩三步

金拾八匁

百廿壹文

永貳拾四匁四分四厘

差引而

錢拾メ貳百九拾七分

金老兩二朱と

此金老兩貳歩

銀三拾八匁

永六匁老厘五



両替六六

合金拾九兩三步

永五匁四分五厘五

可相渡分

右之通御座候、若算用違も御座候ハ、追而被仰付可被下候、以上

文政五年

午閏正月

榎藤左衛門様

宇野与蔵

(裏表紙)

〔此差引ハ文政四年之大福帳ニ而引合有之候間、左様御承知可被成候儀兵衛、義蔵立会

宇野與蔵

午ノ正月迄勘定之内、不残相濟、出入無之相極メ申候、以上  
尚又未ノ五月十九日調査シ相濟ス

一一 莊内紅花買帳 (横帳)

(表紙)

一 文政五年

小出新田村  
宿治右衛門

莊内 紅花 買帳

午六月吉日

覚

一、式メ三百拾め

宿 治右衛門

一、九百め

長内

一、五百七拾匁

名右衛門

一、壹メ三拾匁

三右衛門

一、壹メ百め

惣右衛門

一、壹メ百六拾匁

清右衛門

一、壹メ百三拾匁

勘左衛門

一、式メ百貳拾匁

金助

一、七百め	喜右衛門	一、三百式拾匁	又吉
一、六百式拾匁	源八	一、八拾五匁	長七
一、八百七拾め	奥右衛門	一、八百匁	幸右衛門
一、百式拾匁	源八	一、八百匁	作兵衛
一、老々四百三拾匁	加右衛門	一、三百七拾匁	与七
一、老實九拾め	勘右衛門	一、式百式拾匁	留右衛門
一、老々三百匁	与次右衛門	一、式百五拾匁	喜代二
一、九百五拾め	又治郎	一、式百六拾め	治郎右衛門
一、七百式拾匁	与右衛門	一、三百七拾匁	喜惣兵衛
一、老々式百四拾め	又十郎	一、五百九拾匁	市郎兵衛
一、四百式拾匁	太郎右衛門	一、百三拾匁	源八
一、三百拾め	久左衛門	一、六百拾匁	治郎右衛門
一、五百四拾匁	弥右衛門	一、三拾匁	与治右衛門
一、四百六拾め	善右衛門	一、老々三百六拾匁	助五郎
一、三百六拾五匁		一、式拾匁	亦治郎
一、三百三拾匁	茂右衛門	惣々式拾八々八百三拾五匁	
一、四百め	同人	但拾老々八分かへ	
一、五百匁	長七		

此代

式百四拾四メ三百六拾四文

兩替六メ八百五拾かへ

此金三拾五兩貳步貳朱

永四匁八分五厘

外二

一、金三百匁

惣右衛門

此代式メ五百四拾七文

此金壹歩卜拾貳匁壹分

合式拾九メ百三拾五匁

代金三拾六兩卜

永四匁四分五厘

此錢三百五文

(貼紙)

寛

一、紅花式拾九メ百三拾五匁

代金三拾六兩永四匁四分五厘

但拾壹匁八分かへ

兩替六メ八百五十文

外二

一、四百五十文

七戸三枚、わら縄代

一、六百文

馬式疋賃

一、六百文

兩替損四回分

一、六百文

酒壹樽、小走江

一、壹メ三百文

宿踏立八人賄

一、永三拾六匁四分

取次

一、金貳歩

壹駄分口錢

小以メ永八拾六匁四分

錢メ三貫五百五十文

此永五拾貳匁九分八厘

惣メ金三拾七兩

永四拾三匁八分三厘

内金三拾六兩壹歩 請取

指引

最上金壹兩五朱卜

錢七百廿八文

(後記)

「六月十九日

内金老歩与葦様を請取

六月廿六日

又老阿藤左衛門様を請取

おつり百七文

右之通ニ御座候、以上

午六月

成沢新左衛門

榎藤左衛門殿

宇野 与葦殿

一、老メ八百文

草六遣袋代

此永廿六匁四分六厘

一、金貳両

酒田大浪へ、跡かゝり

永廿八匁九分四厘

敦賀運賃

(貼紙)

酒田掛り物

一、紅矢庄内花

十六入 貳丸

十七入 貳丸

此袋數六拾袋也

此駄老駄三厘貳五

三拾兩替

一、金壹兩

御役上納

拾六匁老分六厘

一、同貳分

敦賀迄運賃

一、同貳分

買口錢

一、八百貳拾文

丁持作り、繩むしろ

諸掛り

一、三拾六文

海船江積酒

手丁持蔵入ちん

錢ノ八百五拾六文

此永拾貳匁七分貳厘

ノ金貳両貳拾八匁九分四厘

一、六百文 あまるめり酒田迄

此永八匁六分四厘 うんちん

惣ノ金四拾兩

永七匁八分七厘

此造六拾六袋

六〇七式五三

六四

京着金四拾兩

永六匁四分貳厘

⊙⊙紅天印庄内 拾六入

四丸

貳袋

京都 伊勢屋理右衛門殿行

永六匁四分貳厘

貳つ割金廿兩 永三匁貳分壹厘

⊙分内 金拾八兩 請取

金壹分 清川成沢渡し

ノ

差引金壹兩三步 不足也

永三匁貳分壹厘

⊙分 金廿兩永三匁貳分六厘

跡買

一、七拾貳メ三拾匁

代金七拾五兩壹分

永四拾貳匁壹厘

一、金五兩 大沼平八殿諸か、り物

永七拾六匁貳分貳厘 敦賀包質等迄

一、金貳分 袋百五拾五包

金差引

一、四拾兩 紅天印

永拾五匁式分

糸代共

金八拾式匁

金四拾壹兩

永四匁式分式厘

永八匁四分三厘

此造百五拾五袋

五式九五八

六四京着

金三拾三兩三步

永拾四匁三分壹厘

◎⊕吉印庄内

拾九八

五丸

廿八 三丸

京 伊勢屋理右衛門殿行

金差引

一、金八拾貳兩

吉印

永八匁四分三厘

高割壹人前

(貼紙)

覚

一、金貳十兩也

内金壹歩貳朱 目かる当

右之通都合金庄内紅花代金之内、髓に受取申候、為念請  
取如斯二御座候、以上

文政五年七月十七日

新町 藤左衛門

⊕

沢畑

与 蔵 殿

覚

一、金貳拾兩也

右者庄内紅花代金之内、髓ニ請取申候、以上

谷地

文政四年巳八月四日

榎藤左衛門

印

沢畑

宇野与蔵殿

右之所へ

七月十日

一、金廿兩

忠蔵殿相渡ス

七月十七日

一、金廿兩

政吉殿相渡ス

覚

一、金壹兩三分

紅天印不足

永三匁式分壹厘

一、金四拾壹兩

吉印代

永四匁式分式厘

二口

×金四拾貳兩三步

永七匁四分三厘

右之通庄内紅花勘定高、如斯御座候、以上

榎 藤左衛門

覚

⊕方貸方

午七月二日

宇野与蔵殿

未五月十九日

一、金貳兩貳步

当座かし

一一 諸指引帳 (横帳)

(表紙)

一、文政六未五月方

榎藤左衛門

同 十一子五月迄 諸指引帳

宇野与蔵殿

同日  
一、金貳步

同断

一、金四兩壹步貳朱

最上一印紅花代割

申七月十五日  
一、金貳拾兩

同断

永六匁貳分五厘

山形状ちん取替

同八月廿四日  
一、金五拾八兩

秋流物代

酉十二月廿一日  
一、永廿四匁四分

当座かし

永拾四匁六分貳厘

同十二月廿三日  
一、金貳兩

当座かし

同六月廿七日  
一、金壹步

同断

戌六月四日  
一、金拾三兩貳步貳朱

夏流物代

同六月四日  
一、永壹匁

清水五右衛門無尽  
伊兵衛方差引不足

同六月八日  
一、金拾兩

当座かし

戌八月  
一、金拾兩

直七方二而

同八月十二日  
一、金拾兩

政吉殿江相渡し

干花壳代不足

戌八月十五日  
一、金七拾五兩

秋流物代

亥八月  
一、金六拾貳兩貳步

秋流物代

永四匁分壹厘

永拾匁四分貳厘

亥五月四日  
一、金拾三兩

夏流物代

子正月  
一、金拾九兩

亥年紅花壳代

永拾壹匁貳分五厘

永拾壹匁三分三厘

林兵衛差引残

同五月

同五月



一、金八両三步

夏流物代

永六分三厘

午年の冬年迄

一、三拾九メ式百式文

大福帳かし

荷物水上ちん

此金五両三步式朱

永六匁四分六厘

一、永拾八匁七分

むしろ代、代かし

亥六月

一、永五匁

半切紙代

金三百四拾八両式朱

永壹匁八厘

同廿四日

一、金式拾兩

流物代ニ請取

閏八月六日

一、金式拾兩

同断

同廿七日

一、金式拾壹兩壹歩式朱

金式百兩権内のかり

取金濟、利足取替

酉正月廿五日

一、金壹兩

未廣濟金之御取替

戌正月四日

一、金拾兩

流物代請取

同六月八日

一、金式兩

同断請取

永拾式匁

無尽出金不足

同六月十四日

一、金四兩

庄内紅花注文金受取

同九月七日

一、金式拾兩

流物代請取

同八月廿一日

一、金三拾兩

同断請取、青字代共

同八月六日

一、金拾兩

請取

此所江の請取方

兵太郎方江かし請取

同九月十九日

一、金式兩式歩

同断請取

戌十二月廿四日  
一、金五兩貳朱

横山美五郎濟金取替

元金返済、リ足取替

亥七月六日  
一、金貳拾兩

最上一印紅花

戌七月十八日分  
一、金三拾兩

当座かり入

乗合金受取

金貳百八拾九兩三步貳朱

同八月七日  
一、金拾兩

同断

永拾貳匁

同五月廿六日分  
一、金六兩

流物代請取

同八月廿三日  
一、金拾兩

同断請取

又(三)と請取分

亥八月廿四日  
一、金拾兩

流物代請取

一、金貳歩貳朱

白木綿六反代

同九月三日  
一、金貳拾兩

同断請取

永貳匁五分

すげ笠貳つ代

同廿二日  
一、金拾兩

同断請取

一、金貳歩貳朱

権内方木の実代

同廿七日  
一、金拾兩

同断請取

一、金貳歩ト

ひしき竹代

子二月廿日  
一、金壹兩

清川ニ而かり、信十郎分

永拾匁四分七厘

根上分取替

子五月廿六日  
一、金六兩三步貳朱

戌十二月権内と五十兩かり

永貳匁五分

白木綿六反代

一、永拾五匁八分三厘

同壹反代

一、永三匁三厘

荷繩貳束代

一、永三拾貳匁五分

玉砂糖代

一、金壹兩貳步

◎印塩代清兵衛ち入ル

一、永拾四匁

中風薬運ちん取替

永四匁五分四厘

一、金貳步

梅花油代取替

一、金壹兩壹步

塩引三箇要助ち入

永拾匁

永六匁貳分四厘

一、金拾壹匁三分六厘

はね苧かしら結繩

一、金壹步

流物之内請取分

金八兩貳步

永拾匁三分

縞袴代

永四分壹厘

一、永拾四匁三分三厘

中風薬運ちん取替

一、永九匁五分八厘

右同断根上方取替

一、金五兩

戌年分紅花代

一、金壹步貳朱

戌年羽入紅花代

売支配料林兵衛渡ス

永四匁六分貳厘

差引過

外二

後

一、金壹步

◎印塩壹表代内遣

金貳兩八

市弥掛リ、伊勢利掛リ

永貳匁貳分七厘

花荷物大石田掛リ

一、金五兩

濟口林兵衛ニ礼金

一、永八匁四分三厘

砂糖生ろ五斤代

金拾貳兩

亥年分紅苧売支配料

一、永三拾三匁三分

砂糖生ろ五斤代

林兵衛ニ相渡ス

前

三口

〆金三百拾兩貳歩

永三匁六分

指引残而

金三十拾七兩貳歩ト

不足

永九匁九分八厘

改メかし

右之通指引相違無御座候、若算用違等御座候ハ、重而

御指引可被下候、以上

文政十一子六月七日

榎 藤左衛門



宇野与蔵殿

前書

一、金三十拾七兩貳歩

永九匁九分八厘

内

六月五日

金拾五兩

相渡し

八月

金三兩壹歩貳朱

●塩代金

〆金拾八兩壹歩貳朱

差引而

残金拾九兩貳朱

相渡し

文政十一子九月四日

相済

一三 紅花仕切

仕切

一、金百五兩

金七拾五兩替

拾八入

壹歩貳朱と

⑦野田

紅花

五丸

銀五匁六分貳厘

〆壹駄廿六袋

右之内

一、金壹兩貳歩

右金之内

銀四匁九分貳厘

壹歩半引

伊勢屋源助 ⑧

一、金壹歩と

嶋印御手板不足

宇野与蔵殿

銀拾貳匁七分七厘

ツルカ払

一、銀七匁貳分と

同 塩津

又七匁貳分

大津払

一、金貳歩と

野田印同

一四 紅花仕切

銀三匁七分六厘

敦賀払

一、銀拾匁と

同 塩津

仕切

又九匁

大津払

金貳兩壹歩と

銀五拾四匁八分五厘

十二月晦日切  
一、金四拾一兩ト

金七拾三兩替  
⑦吉田拾八入式丸

銀五拾四匁八分五厘

三匁七分五厘

歩引

差引残り

金百貳兩壹歩と

銀三匁貳分七厘

引而金四拾兩壹歩式朱ト

六匁九分五厘

銀三匁貳分七厘

四匁三分

右之通り、相對を以買請、則代金差引残り此度相渡し、此

表無出入相濟申候、万一拔袋違箇又者算違等有之候ハ、

重而差引可仕候、為後日仍而如件

内金壹歩式朱ト

壹ヶ月利足

壹匁七分式厘

指引

嘉永四亥年十一月三十日

金四拾兩ト

式匁五分八厘

右之通、相對ヲ以亮渡代金、此度不殘相渡、此表無出入相濟申候、万一箇荷之内、抜箇違花又者算用違等之義有之候ハ、重而御指引可仕候、為後日之仍而如件

嘉永四年

亥十一月廿日

最上屋喜八 ㊦

宇野 与 藏 殿

九分三厘

金壹歩ト

手板取かへ

拾九匁九分六厘

七匁三分

駄賃取かへ

ㄨ 壹兩貳歩ト

廿八匁九厘

指引

金八拾貳兩貳歩ト

九匁四分壹厘

一五 紅花仕切

仕切

一、金八拾四兩

七五がへ

壹歩貳朱也

㊦ 嶋印十八人 四丸

ㄨ 七十式

内 金壹兩壹歩

一半引

右之通、此表無出入相濟申候、万一箇荷之内抜袋違算等有之候ハ、重而御指引算用可致候、為後日依而如件

嘉永四年

美濃屋

亥十一月晦日

忠左衛門 ㊦

宇野 与 藏 殿

一六 紅花仕切

仕切

一、金百八兩壹歩ト

六十六兩替

壹匁八分七厘

⑤日の出十七入三九分

十八入三丸

一、金壹兩貳分ト

壹半歩引

七匁四分五厘

一七 為登紅花覺

一、金壹兩ト

手板不足取かへ

三匁四分八厘

為登紅花

一、金壹兩ト

壹ケ月利足

三匁三分五厘

八十式  
一、金五十六兩貳歩

引

永六匁

メ金百四兩貳分ト

三つ  
一、金貳兩

貳匁五分九厘

八十一  
一、金五拾三兩

右之通御相對ヲ以買請、書面之金高不殘相渡、此表出入

仍而如件  
嘉永四年  
亥十一月晦日  
宇野 与 藏 殿  
西村屋清九郎 ⑥  
無相濟申候、万一箇荷物之内、拔袋違花濡痛有、算用違  
等茂有之候ハ、重而差引可被成候、其為紅花仕切状、  
手さし  
雨緋仕入  
さし花三袋  
雨光仕入

永拾五匁六分 勘七

七十五  
一、金五拾貳兩貳步 雨揃仕入

永廿三匁四分 かにさわ

七十  
一、金四十六兩 雨天仕入

永四十匁 田代賈

三百十一  
一、金貳百拾兩

永八拾五匁

紅花引当  
一、金拾三兩三步仁朱 林兵衛

永三匁五分

リ金壹兩永廿一匁七分

古手代  
一、金五兩貳步 同人

一、金廿兩貳步仁朱

拾貳分

外二

金壹步入ル

紅花仕入引当  
一、金三拾三兩貳步仁朱 九蔵

永三匁七分

リ金三兩貳步

永三匁四分

一、金拾壹兩 同人

永九十七匁四分

一、金四拾七兩

永拾七匁

二口

一、金六拾八兩ト

永八匁五分

紅花引当

一、金三拾八兩

一、金貳百七拾兩

与右衛門

庄六



上方仕入

一、金貳百拾兩 紅花

永八拾六匁 三百拾壹匁

一、金廿兩三歩仁朱 林兵衛殿へ

一、金四拾七兩 九藏殿へ

永拾七匁

一、金三十八兩 与右衛門殿へ

一、金三歩 同人江

永貳匁六分

一、金貳百七拾四兩貳歩 庄六殿へ

永八匁三分四厘

一、金廿一兩壹分 半四郎殿へ

一、金廿四兩壹分 五右衛門殿へ

永廿一匁九分壹厘

一、金拾貳兩 卯蔵殿へ

中間仕入紅花

小以

金六百五拾兩也

上方請金払方

六月 一、金百兩 若喜殿へ

此り金七兩也 下り金

同月 一、金拾兩 同人へ

同月 一、金拾兩 勘助殿分

リ永七拾匁

六月 一、金百兩 伊勢理殿へ

リ金七兩也

十月廿日 一、金百兩 村七殿へ

一、金百兩 此り金三兩

同日 一、金百兩 市弥殿へ

リ金三兩

九月中 一、金四兩貳分 大久保村

宝鏡寺様へ

九月十日 一、金貳歩 小泉村

庄六殿へ

一、金壹兩三分 谷沢

一、金壹兩三分

仁朱

長福寺様と

金四百七拾貳兩貳歩

永七匁五分

とら登  
一、金壹歩

永昌寺様と

一、金拾六兩

小刀屋屈ケ金

卯吉様と入

大坂下り物残銀払方

一、金壹兩貳歩

岩木村

円藏殿と

一、銀九メ三百九十四匁

小橋屋様と入

八分九厘

永次郎殿

吉太郎殿

一、銀九拾壹匁

同人様と入

一、金壹兩壹歩

下敷

佐藏殿と

一、銀四メ百拾壹匁

永太様と入

三分七厘

一、金壹兩貳歩

水押太兵衛殿

銀拾三メ五百九拾七匁六分六厘

出銀

改太 七殿

此金貳百廿六兩貳歩仁朱

一、金五兩

天神太右衛門殿

久藏殿

合金六百九拾九兩卜

永貳拾匁

一、金拾兩

小橋屋へ届ケ金

指引不足

勘助殿と入

金四拾九兩永貳拾目

かし方

一、金三兩仁朱

三吉殿へ

三百拾六文

一、金貳兩貳步

伝兵衛殿へ

一、金三歩

仁左衛門殿へ

一、金貳兩貳步

藤兵衛様へ

三メ七百六十式文

一、金壹兩仁朱

藤左衛門様へ

五拾壹文

一、金八兩壹步

又三郎様へ

一、金壹歩

重内殿へ

一、銀廿四匁四分

八助殿へ

ノ金拾九兩貳步

三百三拾文

一、金六兩壹分

村方取替

三メ七百八十八文

一、金壹兩壹分

南村方へ

一、金九兩壹歩

下郷取替

米四表

一、金壹兩三歩

上郷取替

式メ八百拾五文

一、金壹兩三分

向郷取替

小以

ノ金三拾九兩三歩

六メ九百三拾三文

米四表

左沢名右衛門方東根万次郎殿迄

一、金八拾八兩貳歩仁朱 商人衆中

五メ百廿四文 相滞之分

小泉重次郎方  
六供与七迄

一、金三拾七兩

廿六人

貳歩仁朱

皆無日用もの

小以

ノ金百六拾六兩

七メ四百五拾七文

内金四拾九兩

右上方勘定

永貳拾匁

不足引

指引而

金百拾七兩

永八拾九匁六分六厘

一、米百拾三表

蔵入有米

代金廿貳兩貳步

永拾匁

一、白米拾八表

蔵入有米

代金三兩貳步

永拾匁

一、大豆九表

蔵入有物

代金壹兩下

永四拾匁七分

一、金貳百六兩壹分

手形

百廿四文

かし付

米五表

金壹兩

一、金五兩

白綿六拾反

永貳匁

一、金貳步

村上茶壹本

一、蔵米拾貳表半

升川

一、金四兩

小作方代

代金貳兩貳分

勘兵衛殿

一、金五兩

南繭有金

二月廿日と相渡し分

代金五百貳拾七兩三歩

一、金百五拾八兩

勘兵衛殿

永貳匁貳分六厘

御納米御書替買請代金

内預り

代金

金四兩

おきんと

金五兩

権三郎殿

金九兩引

残而金五百拾八兩三步

永式匁式分六厘

外二

一、粗入

壹箱

一、金貳兩

くつ糸有

一、金壹兩

木綿残り物品々

金五百貳拾壹兩三步

永式匁式分六厘

右之通相互勘定相調申上、如此ニ御座候、以上

文政三卯年方

辰三月改

一八 紅花目録

紅花目録

七月四日

◎

紅天 四丸 十六入

いせ理行

同

紅天 四丸 十八入 三卷

市弥行

同

雨天 四丸 十七入 三卷

山形や行

合

拾貳丸 松田喜八殿出

此懸り物

永三拾四匁六分四厘

運賃

永八匁四分六厘

水不足まし

永五目

蔵しき

永四拾八匁壹分

同

雨上 貳丸 十六入 三卷

平山喜七殿出

永四匁壹分五厘

御役永

錢拾文

出判料

永五匁七分四厘

運賃

永壹匁六分三厘

水不足まし

永八分三厘

藏しき

永拾貳匁三分五厘

金時

四丸 十八入

いせ源行

錢拾文

合五丸

同 緋雨 四丸 十八入

御役

いせり行

永拾壹匁四分

運賃

同 緋稀 八丸 十八入

永拾五匁四分九厘

水不足まし

いせ理行

永三匁八分三厘

藏しき

同 緋極 六丸 十八入

永三拾貳匁六分

若喜行

七月廿二日

合拾八丸

同 稀天 五丸 十八入

永四拾匁七分五厘

御役

松田喜八殿出

永五拾六匁四分

運賃

永拾五匁六分七厘

運賃

永四拾四匁八分七厘

水不足まし

永四匁八厘

水不足まし

藏しき

永七匁五分

七月十二日

倉 紅丸 壹丸 十七入

市弥行

永式匁八厘

藏敷

錢百廿五文

出御判差印付

天童へ飛脚ちん

永廿壹匁八分三厘

錢百廿五文

荷数ノ四拾式丸

懸り物ノ永式百三拾四匁四分

此金式兩壹歩下

永九匁四分

錢百三拾五文

右之通御座候、若算違御座候ハ、追而被仰聞可被下候、

以上

富樫久兵衛 印

丑十月十四日

宇野與藏殿

右之所へ

十一月十九日

弥吉受取

金式兩壹分

七十六文

与藏殿

一九 輕荷目録

輕荷目録

三月廿九日

木綿式箇

根上出陸附分

式百九拾六匁

酒田と添錢不足差盛

六百文

当所と先添錢

銀老匁

藏敷

同日

木綿老箇

御内出

伊藤幸右衛門殿行

三百文 舟形迄駄ちん差盛方

銀壹匁 蔵しき

一、錢五拾貳メ五百文

松屋茂三郎殿方

此私

五拾メ文 舟頭与惣兵衛舟為登分

六拾文 尾花沢ち当所へ駄ちん

貳百文 上郷迄運賃

貳百文 貴家様迄送りちん舟頭へ相私

百文 世話料

〆五拾貫五百六拾文

残巻〆九百四拾文 預り置ク

懸り物〆丁銀貳匁五分

此錢三百文

錢壹メ八百四文

合テ貳メ百四文

差引

錢百六拾四文 不足かし

外二

金貳兩壹分 紅花懸リ〆

永九匁四分

錢百三拾五文

右之通御座候、以上

丑十月十四日

宇野与蔵殿

富樫久兵衛

二〇 書簡(代金渡方依頼)

一筆啓上仕候、寒冷相成候得共、御家内様御揃弥御勇健被遊御座、珍重御義奉存候、此方無異罷在申候、乍憚御安意可被成下候、隨而此度御荷物目方、別紙之通認差上ケ申候、御引合可被成下候、毎度不相替御用向被仰付、千万忝仕合奉存候、右懸りもの金貳兩壹分仁朱と、錢七



拾六文此者へ、無御氣遣御渡被下候様奉頼上候、先者御  
礼旁如此御座候、恐惶謹言

丑十月十四日

富樫久兵衛 印

宇野 与 蔵 様  
同 忠 蔵 様

二二 覚 (受取書)

覚

一、金三拾七兩

右者請取金之内、随ニ受取申候、為念如此御座候、以上

さかへ

丑霜月五日

又三郎 印

沢畑

与 蔵 殿

二三 覚 (紅花代金受取書)

覚

一、金貳拾貳兩壹歩貳朱

◎ 紅花代

右之通り、忠蔵殿より随ニ受取申上候、為念如斯ニ御座  
候、以上

寅四月十六日

榎 兵太郎 印

沢畑

宇野 与 蔵 殿

二三 覚 (紅花代金受取書)

覚

一、金拾八兩也

卯十月廿三日

島屋

右者紅花代金之内、髓受取申候、為念之如此ニ御座候、

佐右衛門 ㊦

以上

宇野與藏様

卯

寒河江

九月十七日

安達又三郎 ㊦

沢畑

宇野与藏殿

二五 覚 (送り金預り証)

覚

二四 覚 (駄賃受取書)

一、金五兩也 但し小判金也

右者越中高岡塩屋半四郎殿より送り金、髓ニ預り申所実  
正ニ御座候、為後念依而如件

覚

辰ノ

山形四日町

一、金考分式朱卜

村山屋七兵衛殿と  
金百兩也  
市村屋弥三郎殿と  
金百兩也

四月卅日

大瀧市之丞

三百文

沢畑

ㄨ

宇野与藏様

ㄨ式口之御届ちん

御使衆中

右之通髓ニ受取申上候、已上

二六 覚 (駄賃受取書)

覚

一、式朱ト いせや理右衛門殿

三百文 金百両入

式丸

右之通髓受取申候、以上

辰六月十四日 嶋屋佐右衛門

印

宇野 與 蔵 様

右の通此ものへ御氣遣なく、御渡し被下度、偏ニ御頼申上候、為念之如此御座候、以上

辰六月十七日

宇野 与 蔵 殿

山口屋勘兵衛 印

二八 紅花代金を替証文

荷物為替証文之事

舍

●玉紅印紅花 拾八袋入 六丸

此内差花六袋有り

此引当金四拾五両也 但文字金二而

右之荷物京都近江や佐助殿江向為差登、書面之金為引当金、髓ニ請取申所実正也、然ル上ハ、右荷物貴殿の方ニ而売方御支配可被下候、当十一月限り右老払代金之内也、

二七 覚 (駄賃渡方願)

覚

一、金老歩ト 江戸

三百文 金百兩之駄賃

御引取可被下候、若限月壳延引ニ相成候ハ、壬十一月

巳利足相加可申候、為其荷為替約定証文、依而如件

辰九月

谷地内楯

大場三吉

印

宇野与蔵殿

同 政吉殿

二藤部兵太郎

沢畑村

宇野与蔵殿

三〇 書簡 (為登金外諸連絡)

(封書上書)

小橋屋

四郎右衛門

二九 覚 (紅花役永外預証)

覚

一、金三分

紅花九丸御役永之内

一、金壹両

同運賃金之内

舟頭藤蔵へ可相渡分

右之通髓預申候、以上

未七月十一日

大石田

羽州最上沢畑

宇野与蔵様方江

急要用

一筆啓上仕候、春寒に御座候所、御全家様御揃益御壮栄可被遊御座、珍重之御義ニ奉存候、随而当方無異儀罷在候、乍憚御安慮可被下候、然り、下店佐竹惣七、去冬中

推參仕候所、不相變御懇情御添心被成下、忝御段御札奉

申上候、主人共会津表へ再度出張仕候二付、未夕榻坂不

仕候、乍去無程無事帰店可仕候へハ、乍憚御安慮可被成

下候、然者旧年中差引候所へ、為御登金桜井源兵衛殿と

御渡も可被下候所、為登紅花荷不捌ケ、旁御渡し方延引

二相成候条、右御同人様と御断り御座候、旧冬中ハ最上

紅花御仕入御方々御一統、御同前御困りに御座候、乍去

追々御片付二可相成候半と奉存候、左候へハ、追々御入

金二可相成候半と、折角相待罷在候

一番渡し之義も旧冬と諸色不捌ケ故哉、何品となく下落

仕候、操綿杯存外之大高下ニ御座候、追々諸品下直ニ出

来可申候半と、相樂ミ罷在候、古手義も元来品不足ニ御

座候間、引下ケ兼候へとも、諸色ニ連レ次第第二下直ニ可

相成哉と奉存候、尚又、当年之所御堅考不相變、御用向

被仰聞可被下候、当年八年号も相變、世上も立直り可申

候半と、相樂ミ罷在候、追々御賑々敷御取引可被遊候半

と、御互ニ目出度奉存候、先ハ右而得貴意如此御座候、

恐惶謹言

正月廿四日

小橋屋

四郎右衛門

印

五兵衛

十兵衛

宇野与蔵様

政吉様

三 覚 (紅花指引殘金受取書)

覚

一、金三拾九兩貳歩貳朱

紅花指引殘金受取

右之通髓ニ請取申候、以上

四月十六日

不店

銀蔵

印

宇野忠蔵殿

三二 覚（紅花代金受取書）

七月十四日

大久保

外塚 藤助 ㊦

同 弥惣治

覚

沢畑

一、金七拾兩

宇野与藏殿

右之通ニ紅花代金、慥ニ請取申候、為念之如此ニ御座候、  
以上

六月十二日

山のへ

心川儀四郎 ㊦

三四 書簡（送金等諸連絡）

安達 又三郎 殿

三三 覚（受取書）

一筆啓上仕候、先以残暑之節、御家内様御揃益御壯健ニ  
可被遊御座奉賀候、隨而当方無異罷在候、乍憚貴意思  
召可被下候

覚

一、貴地五月廿三日、六月十三日兩度御書状、順達忝拝

一、金六拾兩也

見仕候、早速御報可申上候所、彼是取紛御無沙汰仕候、  
御免可被下候

右之通、御使三吉殿方慥ニ請取申候、為念仍而如件

一、㊦御印差引残金一入手被下、御達し被下候由、忝奉

存候

一、六月朔日出ヲ以、御逗留中被仰出候新花、前引当金百両にて田屋飛脚指下し申上候、着ハ入手可被下奉存候

一、輕部氏御組合之御荷物殘金之義被仰下、承知仕候、

右者則戌ノ年加印紅花壹駄、穴印紅花壹駄御指向被下候処、引当金加御印之分へ三拾兩、飛脚便にて指下し

申上候、其後御両名ニ而金五拾兩、佐治吉左エ門殿江

為替被仰下候処、右金高過分ニ有之候間、内金三拾兩

相渡し置申候、依之貳拾兩残りニ相成有之候、尚又去

年御指向被下候加印ニ而、輕部氏八矢四兵衛様御組合

之分、引当之三拾五兩、佐治吉左衛門殿へ為替ニ御取

組被成候、右金高も過分ニ御座候ニ付、内金貳拾五兩

相渡し置申候、是も拾兩殘金有之候、都合三拾兩為替

金不足ニ相成御座候間、右之通取計仕候間、御三人様

へ宜鋪御申達し可被下奉頼上候、尤右ノ兩様為替御取

組被成候節、御借書之壳代金ニ而為替残り金、相渡し

可申趣申上置候、左様思召可被下候

一、当所紅花之儀、いまた殘暑強旁相始り不申候、早庭

水戸追々当着仕候得とも、右之仕合故へ、試ミ商内は

無之候、出来方之儀、定而御承知と可有之候得者、早

場上物之向、昨年よりお登り申候、其代リニ下方者去

年程ニも有之間鋪と奉存候、水戸者一流ニ不宜相見得

申候、扱御地新花町蔵漸く昨日入舟仕候間、当着披見

いたし候、左候処、去年之代呂ものよりはあしく六ヶ

鋪被存候、何れ多少氣配立直り、取引相成候様希居候、

尚相始り候ハ、様子合追々可申上候、先者右之段申

上度、如此御座候、恐惶謹言

伊勢屋理右衛門



八月四日

和七

嘉七

兵七

宇野 与 蔵 様

忠 蔵 様

三五 覚 (千花代金請取書)

覚

七月  
一、金五拾兩 千花代

此利金壹兩

内

九月廿二日

金拾兩

弥惣治

同月廿六日

金廿兩

をつか

金廿兩

三吉

メ金五拾壹兩

右之通請取相濟申候

十月七日

大久保

外塚 藤助



沢畑

宇野 与 蔵 殿

三六 覚 (紅花代金請取書)

覚

一、金三拾五兩 紅花代

右之通、京都村山屋半四郎殿より下金、随二請取、為念仍  
而如件

十一月晦日

外塚藤助



宇野 与 蔵 殿

三七 書簡 (紅花不捌困惑之事)

追 啓

然り、十一月限り為御登金貳百八十三兩金、桜井源兵衛  
様より受取被申様被仰聞、御同人様へ御引合申上候所、紅  
花不捌にて、十二月卅日迄延引致呉可申、日延事御座候



所、又今日桜井様方紅花不捌ケニ付、実ハ国元へ尋御遣

し御座候、国元方案内無之、内々支配之事故、売払候事

も相成不申、当卅日金子相渡不申候而、下拙義も大二義

理相立不申、甚心配仕居申候、且又下拙義、金子ニ而も

相廻り候ハ、ふり替御渡し可上候得とも、下拙義紅花

も不捌、ケ様ノ振替之義も相成兼、何共申訳無之候へと

も、春の事とあきらめ可被下候、迺も当卅日二者出来候

当而も無之候間、不悪御承引可被下旨申参り、誠ニ大二

心配仕候、下店ニ而ハ七月限り取引、冬迄ニ入銀ニ相成

候へハ、主人方へ申訳相成候へ共、冬中皆済不相成、来

正月の新帳之掛銀付出しニ相成候而、主人共思惑も不直

候、紅花不捌ケ共無扱候へ共、種々工夫を以御取引仕候

処、初取引より後勿々出来候而、跡は何とも入り入候御

事に御座候、何分御堅考御含可被下候、先ハ右而得貴意

度早々頓首

十兵衛

卯野要蔵様

政吉様

三八 紅花売勘定覚 (横帳)

(表紙)

寅年分

「久印紅花売勘定

覚

若喜殿方

一、金廿七両貳歩

「十四丸

近佐殿方

一、金貳一両貳分貳朱

「四丸

銀四匁壹分九厘

十二月十四日

四郎右衛門

五兵衛

小橋屋

同家方

一、金拾九兩卜 一、 貳丸

銀三匁四分五厘

山茂殿方

一、金四拾四兩 一、 四丸

三匁三分

市弥殿方

一、金拾兩仁朱 一、 貳丸

六匁壹分六厘

若喜殿方

一、金四拾四兩貳分仁朱 一、 四丸

五匁八分壹厘

一、金四拾五兩三步仁朱 一、 印仙台

永拾匁九分九厘

此銀六匁五分九厘

一、金百六拾九兩 一、 印仙台

永四拾貳匁三分五厘

此銀廿五匁四分壹厘

一、金三拾四兩壹步 一、 印青芋

銀六匁五分貳厘 三駄

此永拾匁貳分五厘

外二

一、金貳朱卜 一、 印青芋

永四匁六分壹厘 新金田實分

此銀貳匁七分六厘

小以

一、金四百拾七兩壹步

永拾九匁六分七厘

内引

若喜殿方へ

一、金百兩 一、 印分

銀壹匁五分

此永貳匁五分

一、金七兩 右利足

一、銀拾四匁八分貳厘 下しちん

此永貳拾四匁七分

一、銀九匁三分六厘 仁朱打金

此永拾五匁六分

伊勢理殿方へ

此所へ

一、金百八拾兩

御直相渡ス

一、金百兩

忠藏ヲ以相渡ス

一、金拾三兩

〔匁〕印壳不足金

又指引而

銀四匁貳分貳厘

返ル

金拾六兩貳朱

此永七匁三厘

永尅匁四分八厘

一、金尅歩

板屋幸次郎船

雜永入用

一、金貳歩

青芋たちん

寅四月三日勘定調

永五匁八分六厘 敦賀塩津大津

一、金七兩三步仁朱

丑紅花勘定不足

〆金百貳拾兩三步

永貳匁三分八厘

永五拾五匁六分九厘

一、金尅兩貳歩

㊦受取

此金貳歩五匁六分九厘

永九匁七分五厘

可相渡ス分

合金百貳拾尅兩尅歩ト

一、永八百匁三分三厘

半助掛手板

五匁六分九厘

一、永五匁

しい竹

指引而

一、金貳歩

廿兩之利足

金貳百九拾五兩三步尅歩マツコ

一、金貳兩三步仁朱

仙台紅花指引不足

永拾三匁九分八厘

永貳匁三分九厘

八月廿五日

一、金百五拾兩

手形かり

此金七匁式歩

一、金三歩

ゆみつる十本

永八匁三分三厘

一、金式歩

きせる

永六匁六分六厘

〆金百七拾壹兩式歩

永五拾七匁八分四厘

此所へ

一、金廿八兩三歩

〆印青苧三駄分

永式匁七分三厘

九月三日

一、金五拾兩

上金

此り金壹兩三歩仁朱

十一月二日

一、金五拾兩

上金

三月七日

一、金三拾兩

上金

一、金三歩仁朱

式百八十兩之

永壹匁六分五厘

下しちんわり

一、金式歩

麦負代

一、金壹兩ト

京〆福嶋迄下しちん

永四拾四匁六分六厘

若喜殿へ

〆金百六拾三兩壹歩仁朱

永九拾五匁六分

此金三歩仁朱

八匁壹分

合金百六拾四兩壹歩

永八匁壹分

指引而不足

金七兩式歩仁朱

永拾式匁式分四厘

内

金壹兩壹分仁朱

永六匁三分三厘

右青等代共八兩引

又指引残

金六兩壹分

永五匁九分壹厘

詰金貳兩壹分四朱

錢七拾六文也

### 三九 差引覺

さし引覺

金貳兩壹分

永九匁六分

此錢六百七十七文

錢百三十五文

錢百六拾四文

金貳兩壹分

九百七拾六文

此貳朱七拾六文

紅花方

輕荷方

### 四〇 紅花買・荷造控（横帳）

〔表紙〕

〔紅花買口・荷造控〕

〔匁様方〕

一、入金百拾五兩

中村様方

一、入金貳兩壹分

又右衛門江濟金

一、入金拾八兩壹分

小太郎方

永三匁

一 入金四兩仁朱卜 同人

六百四拾五文

此永九匁三分七厘五

貳十貳兩

永四十九匁八分七厘五

一、入金巻分

指引過受取

永巻分式厘五

七月廿八日、九月廿八日<sup>㊦</sup>にて  
合金百四拾兩かり

此分相済

外二

一、金式分仁朱ト 数百四十一袋代

百廿式文 袋百拾式代

又入替袋

一、

一、式メ八百文 造り諸掛物

一、式メ四十七文六厘 大石田迄たちん

巻メ七百廿五文 御役永

一、四百八十文 日用小遣

メ 七メ五十式文

此外巻分式百七斤程

都合金巻両式分仁朱

式百四十四文

大石田迄

外二大石田払有之

残り物

一、百拾匁 残花

代

一、 千同

代

メ

買口

四十式兩かへ  
一、巻駄六袋 又次郎

代金四拾五兩

永九拾三匁七分

六十八袋

金四十四兩式分式朱

四十式兩かへ  
一、巻駄ト拾四袋 又右衛門

代金五拾壹兩

七十六袋

代金四十九兩三分貳朱

一、七メ匁

代金八兩三分

留場

一、貳分五厘

代金九兩壹分

金谷原

一、六分三厘

代金貳拾八兩三分仁朱

九郎兵衛

一、貳メ八百匁

代金三兩三分

山寺

一、五分五厘

代金貳拾三兩

小太郎

ノ

代金百七拾兩下

永七拾四匁九分五厘

貳百廿匁入

三百匁入

又二郎

又右衛門

外二十四匁

貳百十匁

壹分百文

内

一、金七拾八兩

永廿一匁七分五厘

中村江相濟

一、金貳拾貳兩

永四十九匁八分七厘五

一、匁へ相濟分

一、金三拾五兩

相渡ス分

一、金四兩

同人私

残花百拾文

小以

ノ金百三拾九兩下

永七拾壹匁六分貳厘五

指引而

金三拾三兩卜

永三匁三分壹厘五

此造り

又三郎 中下 村山屋十二郎殿

三 紅又 六十八 十八入 四丸

代金

又右衛門 中上 同人行

同 雨又 七十式 十八入 四丸

内四袋又紅花造入拵

九郎兵衛、小太郎

同 雨 上々 村山屋半四郎行

十八入 四丸

留場、金谷原買合

同 紅雨 中 同人行

廿入 貳丸

四一 上方仕入紅花

上方仕入紅花

六百四拾四袋代

一、金四百五拾八兩壹分

永壹匁

外二

一、金五拾八兩

中間仕入

永拾七匁

金五百拾六兩

仕入

永四拾三匁

同

六百四十四袋代

一、金四百廿八兩

永拾五匁六分九厘

一、金五十八兩

中間仕入

永拾七匁



銀四四八十六兩

銀四匁五分

永三拾貳匁六分九厘

一、百四十八兩三分仁朱 若喜殿

此売金

三十八匁五分

一、金五百拾八兩壹分仁朱

一、四十七兩貳步 永太殿

銀十六匁貳分貳厘

三匁

一、百三十貳兩壹分仁朱 小橋四郎殿

一、金六十六兩三步

三匁

永十九匁九分

一、百六十兩 同人江

合金五百八拾五兩貳步

一、三步 近安殿

永九匁四分三厘

四匁六分

残而九十九兩三分

一、三步 兩所へ

残

一、貳步 柴田屋

金五百八十五兩貳步

一、十四兩 小刀屋

永九匁四分四厘

一、三兩 古長殿

外二廿七兩壹分 五右衛門方

一、壹兩 竹田殿

一、五十兩貳步 高野山

此 払

銀六百七拾兩壹分仁朱

一、百十兩壹分

いせり殿

永貳匁八分

残而金五十七兩貳分

永八匁六分

四二 覚 (紅花代金受取)

覚

⊕鳳凰

老

↗ 一匁大雨

老

右之通髓ニ受取申候、

高蔵屋

子十月十五日

弥兵衛

⊕

宇野興蔵様

四三 覚 (紅花荷造)

覚

柳

兪

七夕ムク

百廿四把入  
拾四丸

月

同

七夕ムク

百廿四把入  
拾丸

↗ 拾貳駄

右之通荷造仕候、以上

寅

九月十三日

沢畑

与蔵

兪 御印様

#### 四四 書簡(紅花取引之事)

追啓上仕候、然者旧冬勝手向御越被申等、御都合よく御啓納可被遊御迎來御仕、珍重御儀奉存候、当方義御預り上ハ、相応相仕舞越年仕候、乍憚責意易思召可被下候、去年中ハ紅花御荷物御差送被下、其方忝奉存候、尚又當年も不相替御積送可被下候願上候

一、今印紅花御為差下、覚切うり払申上候間、御承知可被下奉存候、右仕切御為差上候、御護手可被下奉存候  
 一、吉雨印儀、先状申上候通、見合居候間、 $\times$ 後ニハ追々商内も相始候得者、其節うり払可申上候、左様思召可被下候

一、伊勢利殿渡し金儀、追々申上候通御承知可被下奉存候

一、前書紅花代金、追々申上候通、榎藤殿へ為替ニ仕候間、御同人方御請取可被下候

一、当地米之儀、旧冬之内御中より引合、本紙通取引仕候、

此後諸方様子出捌方持様而、高下可仕と奉存候、大豆入用ニ相捌申候、小豆不追御座候、菜種荏草ハ入用相望申候、其外相替儀無御座候、御考弁御懸引可被遊候、御引合品々御多分御積送可被下候、奉願上先ハ右之段申上度御願候、御礼旁如此御座候、尚永日追々可申上候、以上

肥前屋

正月四日

武兵衛

印

宇野与藏様

御中

#### 四五 書簡(紅花相場)

追啓申上候、旧冬当地紅花様子承知被下、縮緬緋類直段高直、紅屋衆不引合之趣ニ而つくし方無数、依之宜敷相庭何れも下落、貴地とは不釣、御金有増相庭右ニ

奥仙 上四十八九兩

南部 中四十貳兩

下三十七八兩

南仙 上六十七八兩

中六十貳兩

下五十八兩

最上 上四十八兩

中四十貳兩

下卅八兩

上七十兩

水戸 中六十四兩

下五十貳三兩

上総 上六十五兩

中五十八兩

下五十兩

右之通御座候、仙台御荷物大延着二而、不捌分残花六百五十駄余、例年ニは余分、何卒早春と追々相捌キ、御都合能御引合候処奉願候、尚又不相交御出荷支配被仰付被

下度奉願上候、已上

正月五日

越後や 新七

#### 四六 諸相場

相場

一、金

一、銭

一、<sup>①</sup>大入江戸向

五又二百目

一、<sup>②</sup>大入同

五又八百目

一、<sup>③</sup>大入北目向

五又三百目

一、<sup>④</sup>丹州同

五又七百目

一、<sup>⑤</sup>大入同

五又八百五拾目

一、<sup>⑥</sup>大入同

五又九百五拾目

一、西国錦六又目入

百拾貳匁

一、新篠卷 三貫八百目

一、肥後米 五拾九匁二分

一、筑前米 五拾七匁六分

一、加賀米 四拾八匁二分

一、南部大豆 三拾五匁

一、岡大豆 五拾壹匁

一、水油 二百二十四五匁

一、会津蠟一斤 二匁五分

一、佐らし蠟 一匁三分九厘

大阪

小橋屋店

相場

最上 上々 四拾四五兩

中 三拾七八兩

下 三拾貳三兩

南仙 極上々 品拂応之

中 四拾貳三兩

下 三拾七八兩

四拾兩迄

品拂応之

中 四拾貳三兩

下 三拾五七兩

郡山 上々 四拾三五兩

下 三拾八九兩

庄内 上々 卅壹兩

下 貳拾三五兩

古河 上々 品拂応之

武州 中 四拾兩前後

下 三拾五六兩

水戸 極上々 五拾兩位

中 四拾三五兩

下 三拾七八兩

残花 凡四百駄程

右之通御坐候、以上

治兵衛

正月五日

新五郎

増井新六郎

四七 書簡(紅花相場)

追啓上仕候、然者旧冬□□□□思召之儘ニ御都合克御□

□舞可被御座、目出度□□奉存候

一、当所紅花相庭之儀、□夏諸方新花古来□□駄不足ニ

付、目覚敷直段ニ引立、御荷主様御一統御利運ニ相成、

大悦至極奉存候、乍併当所紅花衆、存外不引合、旁以

勝手之三部一ならて潰方出来不申、依而際商内淋敷御

仕舞□□、乍去右多登高御座候故、越年残花凡四百五

拾駄位と相見得申候、未夕早春之儀故、商内相始り不

申候得とも、来月ニも相成候ハハ、一花気配克相捌可

申候哉と奉存候、旧冬太略直段則左ニ

最上 上々 七拾兩

中 五拾八兩

下 五拾兩

南仙 上々 八拾兩

中 七拾兩

下 六拾四兩

奥仙 上々 六拾四兩

中 五拾七兩

下 五拾兩

庄内 上々 五拾五兩

中 五拾兩

下 四拾七兩

郡山 上々 六拾五兩

中 五拾五兩

下 五拾兩

武州 上々 七拾五兩

中 六拾五兩

下 五拾兩

水戸 上々 八拾兩

中 七拾兩

下 六拾兩

右之通ニ御座候間、御勘考可被下候、何卒御仕入御荷物等、不相変私宅へ御出荷被成下候様、奉願上候、壳庭之義無油断相働キ、早々御吉左右可奉申上候、先者右年頭添状旁申上度、如斯御座候、恐惶謹言

吉文字屋

彦市義助 ㊦

正月五日

榎 藤左衛門様

御店家中様

### 四八 書簡(紅花等取引之事)

追啓申上候、旧冬者方端御都合克御取納被遊候半と、目

出度奉存候、隨而当方御蔭ヲ以、相応ニ取仕舞仕候間、乍憚御安意可被下候

一、旧獵三日御出し貴礼相達し、忝拜見仕候、且又其御林兵衛様行御状卷通入成、為御登被遊、早速相届ケ申候間、此段宜御承引可被下候、尚又御同人様御儀も、

此節者播州表へ御下向被遊候間、定而近々二者御機嫌克御帰京可被遊候半、此段御安意可被下候、

一、御印御荷物之儀も、旧冬中二者大体御片付ケ被遊様御座候へ者、定而林兵衛様も可被仰上、宜御承引可被下候

一、爰元紅花之様子者、乍略儀年始状裏書ヲ以申上候間、宜御披見御承知可被下候、先者右之段申上度如此二御座候、以上

正月五日

若山屋喜右エ門 ㊦

宇野与蔵様

忠蔵様

貴下

四九 書簡（紅花相場等之事）

成可申と、乍憚奉存候、猶相替義者追便可申上候、先者御年始御祝詞添状、旁如此御座候、恐惶謹言

近江屋佐助

正月五日

清介

伊助

宇野 与蔵様

忠蔵様

御家内中様

一筆啓上仕候、先以来余寒強御座候得共、其御地御家内様御揃益御勇健ニ可被成御座、珍重之御義奉存候、随テ当方無意義罷在候、乍憚御休意思召可被下候、然者旧冬御商内諸事万端、御都合能御取仕舞被遊候半、大悦奉存候、下拙方御かけヲ以相応仕舞仕候、乍憚御休意可被下候

一、昨年者不相替御差荷被成下候、林兵衛様方御承合被成下、忝猶当年も不相替御取引之程奉希上候、当地相庭之義、追々御承知被成下候半、誠案外之下落相庭ニ而、御荷主様御一統御損金相成候、氣之毒仕候、則旧冬押詰取引相庭平積状浦書ヲ以申上候、御護可被下候、存外之成行ニ乍不捌ケ、旁殘荷多相残り当惑仕候、当春者一花引メ取引仕度奉願居候、且亦林兵衛様御都合能、あらあら御仕舞被遊候得者、無程当地御出立ニ相

五〇 書簡（紅花取引之事）

追而啓上仕候、然者旧冬万端思召之儘、御都合能御取調可被遊、目出度御儀奉存候、随而当方以御蔭取仕舞仕候、乍憚御休意被思召可被下候

一、爰元紅花相之儀、去ル夏以来段々不氣配之所、早庭水戸近来珍數駄数出来、新花登り込候所、目先キ荷物



夥敷相上り申候へ共、其後奥羽欠作之段、追々相聞江

申候二付、立而一花引立可候哉与相楽罷在候処、元来

当地紅屋衆不氣配之上、江戸表諸店向仕入染地無数、

諸国仕入等も是順し、紅染屋引合、旁以次第二下落仕

候、旧冬押詰際、商内も甚淋敷相仕舞申候、依之越年

残花も凡千駄計二も相見江申候、未早春之儀故、商内

相始り不申候得とも、来月二も相成候へハ、一花引立

取引相始り可申候哉と奉存候、尚又当新花御仕入御荷

物、不相交下店方江多分御出荷被仰付、可被下候様、

偏二奉御願申上候、尤壳込之儀抽而相働キ早々御□□

□可申上候、先者右之段御願奉申上度、年始添書旁如

此御座候、尚書余永日緩々可奉申上候、恐惶謹言

吉文字屋

正月五日

彦市

儀助 ㊦

忠助

宇野与蔵様

忠蔵様

店人中

五一 書簡 (紅花取引之事)

(前欠)

望人無之所、無扱引下ケ壳買相成、御一統様不軽御損失

出来、何とも氣の毒二奉存候、兎角地庭奈印珍敷荷捌薄

く、多分之出替二も無之、荷物残花近年無御座、多分是

二而先人氣立不申、其上染方等も仕入向三ヶ一位と申唱

候、此様子二而者紅花商内、思案ものに御座候、御勘考

可被下候、御互ニケ様之成行二而者、当方商壳二不相成、

宜御工夫御教示可被成下候、奉願上候、何卒当春順克商

内成候様希居候而、相替儀候ハ、早速可申上候、先者

右之段申上度如此御座候、恐々謹言

正月五日

伊勢屋理右工門

兵七 ㊦

宇野与蔵様

五二 書簡(諸相場之事)

一筆啓上仕候、未春□□□御家内様御勝弥勇健□□弥  
重奉存候、当方無□□貴意易思召可下候、然者当□□御  
用向被仰付被下度奉願上候、当地米之義先状後有米沢山  
□旁緩ニ右之通取引仕、此後諸次に出揃方二而高下可仕  
候、大豆□入用□相揃申小豆不進之□□荏原駢と相届申  
相替無御座候、何相庭

- 一、筑前米 六拾七匁
- 一、同 古米 六十三匁
- 一、肥後米 七拾匁
- 一、同 古米 六十七匁三分
- 一、中国米 五十七匁
- 一、広嶋米 六十四匁三分

- 一、肥前米 六十三匁四分
- 一、加州米 五十八匁
- 一、岡大豆 五拾六匁
- 一、筑前米 六十七匁式分
- 一、庄内米 □□□□
- 一、同大豆 □□□□
- 一、同小麦 三十八九匁
- 一、同菜種 七十三四匁
- 一、最上大豆 四十式三匁
- 一、同 小豆 四十匁
- 一、同 荏草 七十三四匁
- 一、金錢 六十六匁三文
- 九匁壹分

右之通御座候、御勘弁御引合品多少御積送り可被下奉頼  
候、先左様残事度如期御座候、恐惶謹言

二月五日

肥前屋武兵衛

宇野興蔵様

御中

五三 書簡(紅花相場之事)

(端書) 田宮五郎右工門様

一筆啓上仕候、薄暑ニ御座候所、先以貴御地弥御勇健ニ  
可被遊御座、珍重奉賀候、然者貴地紅花時附草生之義、  
是迄順雨追々見事ニ出来可仕と奉察候

当地紅花取引之義、春□□□其上金相庭不同、諸仕入物  
弥々払底ニ御座候間、斤掛と紅屋衆染職等無數、先々直  
段と不引合趣、依之去冬も相庭追々下落、當時取引相庭  
有増も二

中廿兩

下廿四五兩

庄内 貳拾兩

上四拾三兩

土総 中三拾八兩

下三拾貳兩

上卅七兩

水戸 中卅貳兩

下廿八兩

右之通ニ御座候へ共、何分取引無數ニ御座候、去冬と八  
五兩方下落、貴地之思召とハ不釣り合ニ御座候間、能々  
御深考之上、当新花御仕入可被遊候、為之御買入にてハ  
亦々御損金物乍憚御賢慮を以様々利口御買口可被遊、不  
相替御出荷支配被仰付被下度奉願上候、先ハ右得貴意様  
子為御知、御願旁々如此ニ御座候、恐惶謹言

四月廿二日 越後や 新七 ㊦

田宮五郎右衛門様

上四拾兩

南仙 中三拾五兩

下三拾兩

南仙 上四拾五兩

中四拾兩

下三拾五兩

最上 上三拾五兩

御店家中様 貴下

五月十七日

伊勢屋理右工門 ⑩

利七

兵七

宇野与蔵様

忠蔵様

五四 書簡(紅花取引之事)

追啓

其後御無沙汰御免可被下候、扨早春者御着状被下、忝  
拜見仕候、且又芦野又作殿一件之儀、其後追々御掛合被  
遊候而、無滞御入手可被成候義と奉存候、乍併、昨年方  
之御引合候事ニ御座候故 奉存候

五五 書簡(紅花成育相庭之事)

書簡

宜鋪年柄御座候、早庭水戸者荷不足、当初氣配も先宜敷、  
持合能存候得共、買人等達而可申、左候而者思通ニ御手  
ニ入申間鋪、思案仕候、乍併、場合ニ方高下直立向可有  
之奉存候、此所乍憚御油断なく、御都合克御買入被遊度  
奉存候、何れ事直高者御利潤無覺束奉存候、何卒順克出  
来候様希申候、先者右之段申上度如此ニ御座候、恐々謹  
言

一筆啓上仕候、向暑之節ニ御座候処、先以貴御地御家内  
様被成御揃、弥御安全可被遊御座、珍重御儀ニ奉存候、  
次ニ当方無異儀罷在候、乍憚御安意思召可被下候、  
一、御地紅花御様子草生見事ニ御座候由、承知仕候、追々  
順雨ニて此節專御仕入最中にて、嗚々御繁多可罷為入  
奉察上候、当地之儀ハ春登無數ニて、望人も御座候得  
共、拘不体ニ御座候、新花登り込候ハ、相心ニ望出

可申と奉存候、何分御仕入御荷物不相替數多為御登被成下、支配被仰付可被下候、奉希上候、売庭之儀ハ随分と無油断入情仕候間、早速売捌御左右可申上候条、何分宜奉希上候、

一、当地諸相庭別紙ニ御讒可被下候、繰綿<sup>⑤</sup>困ニて當時五メ匁位ニ御座候、其外差而相替儀も無御座候、猶又相応之御用向等、被仰付可被下候様奉希上候、先ハ右之段御願申上度、如此ニ御座候、恐惶謹言

五月廿八日

鳴屋清兵衛

嘉兵衛

兵助

宇野 与藏様

忠藏様

## 五六 書簡〔紅花注文書〕

〔端裏書〕

〔六月七日〕

市村弥三郎様<sup>〆</sup>

〔紅花注文書〕

一筆啓上仕候、先以大暑ニ相向候へ共、御全家様御無異御壯健可被遊御座、珍重之御義ニ御座候、随而当方無異儀罷在申候、乍憚御休意可被下候

一、先月中御心添被下、忝拜見仕候、然者竹田右衛門小刀屋殿行、無相違早々御送申上候、宜御承引被遊可被下候、且又先達而高福寺様<sup>〆</sup>受取金御座候間、為替ニ御願申上候、定而御受取可被下与奉存候、且又正金五両也差上申、是又參着御入帳可被下与奉存候、少金ニて甚御氣之毒ニ奉存候へ共、其節御願申上候紅花、何卒三拾五六両之処、御買入被下度奉願上候、尤金不足

二御座候間、何卒為替二御取組被下度奉願上候、元金不足仕候て、是又為替二御願申上候、何卒可然様被成下度、奉願上候、爰元事先書何様相替儀無御座候、隨□□□□宜御座候へ共、未夕早庭も着不任候而、其上紅屋仕業も相休居申候間、大キニ急々仕候尚相替儀も御座候ハ、早々可申上候、先者右奉申上度、如此二御座候、尚期後音之時候、恐惶謹言

六月十七日  
市河屋 弥三郎  
宗 林 ㊦

宇野興蔵様  
忠蔵様

五七 紅花積附覚

積 附 覚  
七月廿八日船

◎仙 紅花 十七入 五丸  
緋 十八入 三丸

佐州深浦

菊地弥十郎船

同 雨 十八入 四丸  
同 緋 同

同 造 同 雨緋 拾七者 壹丸  
差替 三ノ八百匁入

ノ五丸

能州輪嶋

同 金 酒屋彦太郎船  
同 同 十七入 四丸  
ノ五丸 十八入 壹丸

越中水橋

鳴屋太郎兵衛船

同 本 十九入 壹丸 十八入 三丸  
ノ四丸 同

加州堀切

小納屋窓右衛門船

合廿式丸

右之通積入申候間、御健意被遊可被下候、  
以上

八月二日

根上 善平 ㊦

宇野与葦様

五八 書簡(紅花為替登候事)

飛脚便り一筆啓上仕候、秋冷ニ御座候得共、先以□□御  
家内様御勇健ニ罷□□御座、奉珍重、次ニ当方無別条罷  
有申候、乍憚御安意思召可被下候、然ハ当新花貴家様向  
為差登申候、左ニ

㊦ 金時印 廿入 式丸

同 錦 廿入 式丸

四丸

和久井伊兵衛様分

右之通 [ ] 向為差登申候、 [ ] 尤買場

[ ] 場所ニ而相調、為差登申候、当年ハ何卒利  
運ニ相成候様願ヒ罷有申候、尚御面倒ニ有之候得共、右  
荷物敦賀着仕候ハ、御案内被仰聞可被下候、尤壳方之  
儀ハ、来月柔順為致出立、林兵衛上京久砌ハ、不相替御  
添心被下度、奉願上候、外ニ相替儀無之、右之段申上度、  
出荷案内迄如此御座候、余者期後便時候、恐惶謹言

宇野与葦

政吉

林兵衛

八月十三日

近江屋佐助殿

五九 書簡(紅花等取引之事)

一筆啓上仕候、先以冷氣ニ御座候処、御家内様御揃御勇

健被遊御座、珍重奉存候、当方無異罷在候、乍憚貴意易  
思召可被下候、然ハ先状追御渡申上候条、御承知可被下  
奉存候

一、先達而御積付被仰下候紅花之内、此度左之通

◎吉紅印 十七入 三丸

右之通無事着、慥ニ請取り申、御安氣可被下候、売方  
儀未相手無之義、相手次第うり払可申上候

一、御仕入被下候紅花儀も、先達御渡申上候通、御承知  
被遊可被下奉存候

一、綿作ハ弥欠作相成り申候

一、当地米之儀、先状後□□數ニ向、諸方作劣候趣相聞  
専次第二景氣よく、両三御待合別紙通読取引仕候、此  
後続方様子取入模様ニ而、高下可仕奉存候、大豆立直  
り、小豆御同事、茶肝・荳草も立ち直り申候、其外相  
替儀無御座候、御常弁御盆引可被給候

一、紅花儀も御出立後、追々御出立御客様方にうり組入  
被遊候而又々不促仕、此節ニ而者紅屋衆も、新花着不  
仕候内ハ買兼候趣、相察申候、夫故商内も耽々無御座

候、乍去、御地新花登し出駄数模様ニ而、高下可有御  
座奉存候

一、天災之儀、雨天勝候得共、風紅無之、品々申分無御  
座候

一、当地米之儀、先状後普通品々追々無御座候、申分無  
之候ハ、方うり組の米有之次第、不促別紙通請引仕  
候、此後何方様の次第、高下可仕存候、大豆不促、小  
豆新小豆類ハ、入用迄相捌申候、茶肝度々、荳草同事、  
入用相捌申候、其外相替儀無御座候、御常弁御引合御  
座候ハ、御積送り可被下候、奉頼上候、これにて右  
得責報貴々、請事申上度、如此御座候、恐惶謹言

八月十七日

肥前屋

武兵衛 ㊦

宇野与蔵様

忠蔵様



六〇 書簡(紅花入船之事)

一筆啓上仕候、先以秋冬之砌、貴御地御家内様御揃、益御勇健ニ可被遊御座、珍賀奉存候、随而当方無異儀罷在候、乍憚貴意思召可被下候、此度印御荷物、不相替御指向被成下、外聞旁難有奉存候、則敦賀入船申参り候間、別紙ニ申上候、御安堵可被遊候、当壳方之儀者御指図に随ひ、無如在御取計可申上候、当地景気合、御荷物着之節、万々可奉申上候、先者右之段申上度如此御座候、恐々謹言

九月四日

宇野与蔵様

伊勢屋理右工門

兵七

印

六一 書簡(紅花荷到着之事)

一筆啓上仕候、秋冷御座候へ共、御全家様御揃益御壯健ニ可被遊御座、珍重之御儀ニ御座候、随而当方無異儀罷在申候、乍憚御休意思召可被下候  
一、御印様御荷物此度左之通

五大紅花 四丸

右之通此度無事入舟申参候、定而近々無事当着可仕与存申候、御同悦被遊可被下候、大方の御厚情難有仕合ニ御座候、当年御多少利分ニ相成可申、大悦ニ御座候、乍去、爰元紅花も先書同様不相替候へ共、紅染やも未夕仕業相休居申候間、買遣不申候へ共、追々相望可申哉、何分商内者□□可申御座候、尚追々様子可申上候、先者右奉申上度、御案内旁如此ニ御座候、恐惶弁言

市村や

十月四日

弥三郎

宗介

印

宇野与蔵様

忠蔵様

六二 書簡(紅花売付之事)

.....(前文欠).....

之砌ニ御座候得共、貴御地御家内様御揃御勇健ニ被遊御座、珍重ニ奉存候、私義も別条なく逗留罷在申候、乍憚御安意思召可被下候、衆々爰元様子之儀も度々申上候通、引合様子一向相見へ不申、追々不景氣之様子ニ而、当年中ニ差引メ高様子も相見へ不申候間、此度大損御座候得共、残らず見切売付申候、誠ニ売□□差上候も、甚延引ニ御座候得共、抛なく売付申候、何卒御用捨御勘弁ヲ以而御覽可被下候、売付左ニ

◎天雨 三拾三兩貳分

四丸

同金時 三拾八兩也

四丸

同飛雀 三十三兩手取 四丸

同雨飛 貳十八兩 手取 三丸

同丸紅 同断 貳丸

同雨緋 四十八兩 貳丸

欠大紅 四十兩 手取 三丸

同極緋 三十三兩 手取 貳丸

同玉紅 三十三兩 手取 貳丸

同緋枕 三十三兩貳分 分引 貳丸

同雨綿 四十貳兩 分引 貳丸

傘雨錦 四十三兩 分引 四丸

同雨紅 三十三兩 分引 貳丸

傘雨天 三十四兩 分引 四丸

右之通り売付申候、思召ニ御叶不申候儀と察入申候得共、当年□事□抛なく売付申候間、何卒御勘弁御承知可被下卒、委細之義者早々取片付返回之砌得貴顔、万々□□可申立候、私義も□□早々返回可仕候間、左様思召可被下候、外ニ残り紅花傘印七丸有之候得共、此儀ハ

一箇日中に壳片付、早々北国通越中用向取調へ相成とけ、  
当年中返国いたし度□□御座候、左様思召被下、猶申上  
度、如此御座候、委細之儀ハ返国節可申上候、恐々□□

同林□□

十一月廿三日

宇野与蔵様

忠蔵様

御家内衆中

伊勢屋理右衛門 ㊦

宇野与蔵様

### 六四 書簡（紅花相庭之事）

追啓上仕候、然者旧冬者万端思召之儘、御都合克御取仕  
舞可被遊御座、目出度御儀奉存候、

一、当所紅花相庭之義、去夏諸方新花古来珍敷駄不足二

付、目覚敷直□□、御荷主様御一統御利運二相成、

大悦至極奉存候、乍併当所紅屋衆、存外不引合、旁以

例年之三分一ならず、潰方出□□不申義二而、際商内淋

敷相仕舞申上、乍去、不多登高御座候故、越年残花凡

四□□駄位と相見得申候、未夕早春之義故、商内相

始り不申候得とも、来月にも相成候ハ、一花気配克

相捌ケ可申哉と奉存候、旧冬右略直段則左二

最上 上々 七拾両

### 六三 覚（紅花荷敦賀到着之事）

覚

◎金紅 五丸

同合 壹丸

右之敦賀無事着候間、御案内申上候、以上

水戸	古河	武州	郡山	庄内	奥仙	南仙	
上々	中	上々	中	上々	上々	上々	中
八拾兩	五拾兩	七拾五兩	五拾五兩	五拾五兩	五拾七兩	六拾四兩	五拾八兩

中 七拾兩  
下 六拾兩  
右之通御座候間、御勤定可被下候、何卒御仕入御荷物等不相交、私宅へ御出荷被成下候様、奉願上候、壳庭之義無油断相働き、早々御志左右可奉申上候、先者右年頭添  
状

六五 紅花送状

封印

右之通差送申候間、貴地着御請取、早々先キ御送届ケ可被下候、尤駄賃之義者、才料之者御請取可被下候、奉願上候、以上

沢畑

宇野興蔵



西

七月十二日

一、巻メ廿六文 六駄式丸

六田村 六田ちたて岡へ

藤四郎

御問屋所

一、巻メ式百六十巻文 六駄式丸 袋まし

たて岡ち土生田へ

長兵衛 印

楯岡町

御問屋所

土生田村

御問屋所

一、九百七十四文 六六式丸

袋まし共

土生田ち大石田迄

同日

源助 印

大石田

富樫久兵衛殿 行

六六 書簡（紅花取引之事）

（その一）

……（前文欠）……

珍重奉存候、当方無異罷在候、乍憚實意易思召可被下候、然ハ先月廿三日出し貴礼、当十八日相達、忝拝見仕候、貴家様にも御道中御無儀帰国被遊候段、乍憚御同慶奉存候、誠に逗留中為差仕も無御座候処、恐々謹言御挨拶被下、痛入奉存候

一、御仕入品々御銀、兵太郎様へ差引ニ而御請取申候、

右品積付申上候処、古手三つ固着仕候而、残り者未着

不仕候由、何れ無程無事着可仕奉存候

一、当新花五丸手板式通ニ而、差為登被下候段、尤内式固

ハ札方印御付御為登被下候段、承知仕候、則左之通

全丸 紅 十七入 式丸

手板 壱通

吉 紅印 十七入 三丸

但し右内袴袋別花有候由

手板 壹通

〆五丸

手板 壹枚

右の通御差送被下段、忝承知仕候、参着早束御案内可申上候

(その二)

.....(前文欠).....

宜割合下直二付、御注文不申上候得共、御荷割被下候段、御厚情千万忝奉存候得共、私方何人之儀候杯、時分老等ハ一切不仕候、右式丸之分、御断可申上候筈候処、折角御荷割被下儀候故、荷物着ノ上代呂物一覽之上、利口成品候ハ、申請可申候、此段宜御承知成置可被下候

一、右壳方之儀も、当所相場模様ニ而御任被下段、出情うり拂可申上候様、委細承知仕候、近年御損続由之処、代呂物御吟味御為登被遊候段、何れ着の上、随分相賀出情うり拂可申上候、左様思召可被下候

一、貴家様紅花代金内、うり荷着之上、京伊勢屋利右衛

門殿へ、金貳拾兩御渡し可申上候様被仰下、承知仕候、

京着早束相渡可申上候、

一、御買物内金儀、前書紅花代金差引仕候、不足処ハ為

替可申上候様、被仰下候、承知仕候得共、右者前書に

も申上候通、ⓐ様へ差引相成り罷申候故、違金候ハ、

ⓑ様差引へ相加へ置可申候、

(その三)

一、紅花儀未着不仕候、無程無事着可仕と奉存候、右代

金ⓐ様へ差引、相加候、此度又々御積下候由、此段左

様思召可被下候

御米之儀、其外共本紙通取引仕候、右外相替儀無御座候、

先右段申上度如此座候、以上

九月五日

肥前屋

武兵衛 ㊦

宇野与藏様

御中

六七 書簡(紅花取引之事)

宇野忠蔵様

根上善平

端午之御祝儀目出度馳走仕、□□□□泊り御座候得とも、  
貴地御家内様御揃倍御勇健可被遊御座、珍重御儀奉存候、  
随而下拙無異儀罷在候、乍憚御安意可被成下候、然者先  
月廿四日出しヲ以御出荷御願上候得ハ、近日相達御披見  
可被成下与忝奉存候

六八 紅花荷物送状

紅花荷物送状

一、貴地新花之儀、此せつ追々咲出可申奉存候、何之□  
□ニ兩都合能御取入ニ相成候様奉祈候、且又只々御願  
上候通、新花利好□沢山ニ御仕入不相變、御ニ□被  
下度奉希上候、情々相働キ早売御仕切可申上候、且御  
当地之儀ハ其後不相變靜謐ニ御座候、此後底固□□□  
より大高下可仕奉存候

一、青綿之儀順氣能、人氣□□相見へ申候得とも、友の  
下直ニ□□□□、是又此後□□□□大飛直も、可相成  
奉存候、御□考可被下候、先ハ右御願申上度、早々如  
此候、以上、恐々謹言

◎ 紅花 拾八入 七丸

同 同 拾七入 四丸

同 同 拾六入 拾丸

同 同 拾九入 三丸

同 同 貳拾八 貳丸

△ 貳拾六丸

外まし袋 三拾五袋

此駄片馬三袋

駄直

合七駄卜三袋也

六九 紅花積附覽

積附覽

◎紅本 紅花 十六入 壹丸  
十七入 三丸

↗四丸 若壹行

越中岩瀬 藤村屋吉次郎船

七月十日出帆

同紅金 同 十七入 三丸  
十八入 弐丸

↗五丸 伊勢刺行

上野屋与忠兵衛船

七月十日出帆

右之通出帆仕候間御安慮可被成候

七〇 紅花積附送状

忠藏様：(前欠).....

外二今日無事着左之通

◎紅錦 同 十八入 五丸

↗佐州深浦

菊地庄兵衛船

同飛雨 同 十七入 四丸

↗加州堀切

細屋半右衛門船

同飛雨 同 十七入 壹丸  
十六入 三丸

↗越前宿浦

新屋彦兵衛船

同紅丸 十七入 壹丸  
十八入 壹丸

↗越中東岩瀬

上野屋仁三郎船

合拾五丸



七一 紅花送状

紅花送状

◎紅花 拾九入 六丸

□同 廿入 三丸

□同 十八入 壹丸

㊦同 十八入 壹丸

ㄨ拾壹丸

まし袋 三拾四袋

此駄片馬式袋

合三駄壹丸式袋也

右之通り御座候、駄賃之義、才料ものゝ御受取可被下候、  
毎度乍御世話様……(以下欠)……

七二 紅花送状

紅花送状

◎紅花 十七入 五丸  
十八入 三丸

同 同

ㄨ式駄卜拾壹袋

右之通差送候間、其着御改、先々御送届可被下候、尤駄  
賃之儀ハ、才料のものゝ御請取可被下候、以上